

ライフサイエンス分野におけるリサーチツール
特許の使用の円滑化に関する指針
(案)

(概要版)

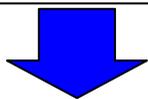
平成19年3月1日

総合科学技術会議

【本指針の位置付け】

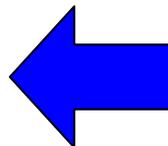
研究ライセンス指針

- ・大学等間での特許等の使用の円滑化
(平成18年5月決定)



今回の指針

- ・ライフサイエンス特有の問題に対応



国際的動向

OECD (2006年)

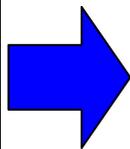
研究目的等のための遺伝子関連発明の広範なライセンス供与等の考え方を示すガイドライン

NIH (1999年)

リサーチツールを研究で円滑に使用するためのガイドライン(国費原資のリサーチツールを対象)

【背景】

リサーチツール 特許



汎用性が高く、代替性が低いものが多い

(例: 遺伝子欠損マウス、ヒト遺伝子)

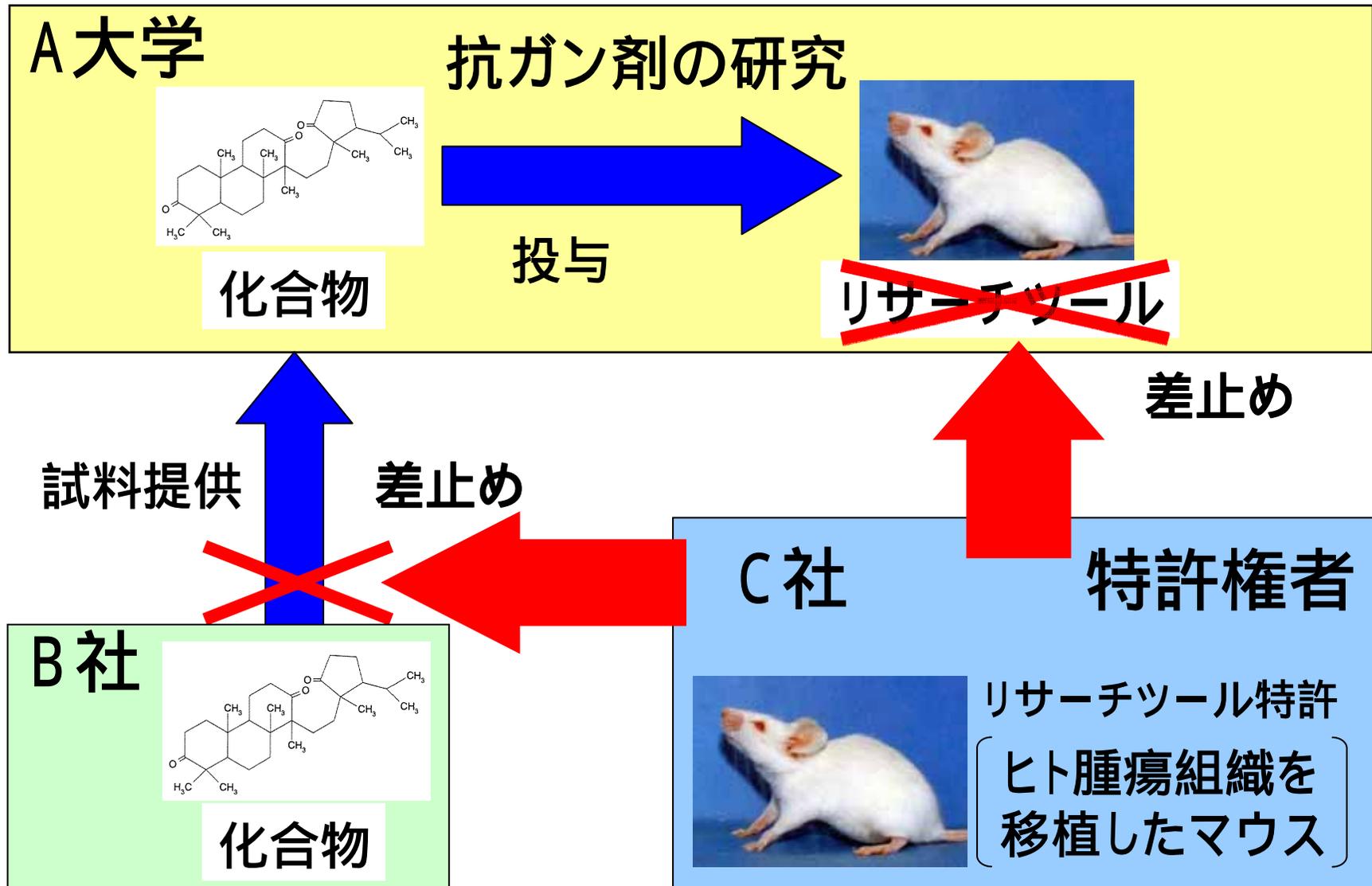
独占により研究開発に支障の可能性

(例: ライセンス交渉が難航、研究の差止訴訟)

ライフサイエンス分野を対象とする本指針では、
「**リサーチツール特許**」とは、**ライフサイエンス分野において研究を行うための道具**として使用される物又は方法に関する日本特許をいう。
(実験用動植物、細胞株、スクリーニング方法など)



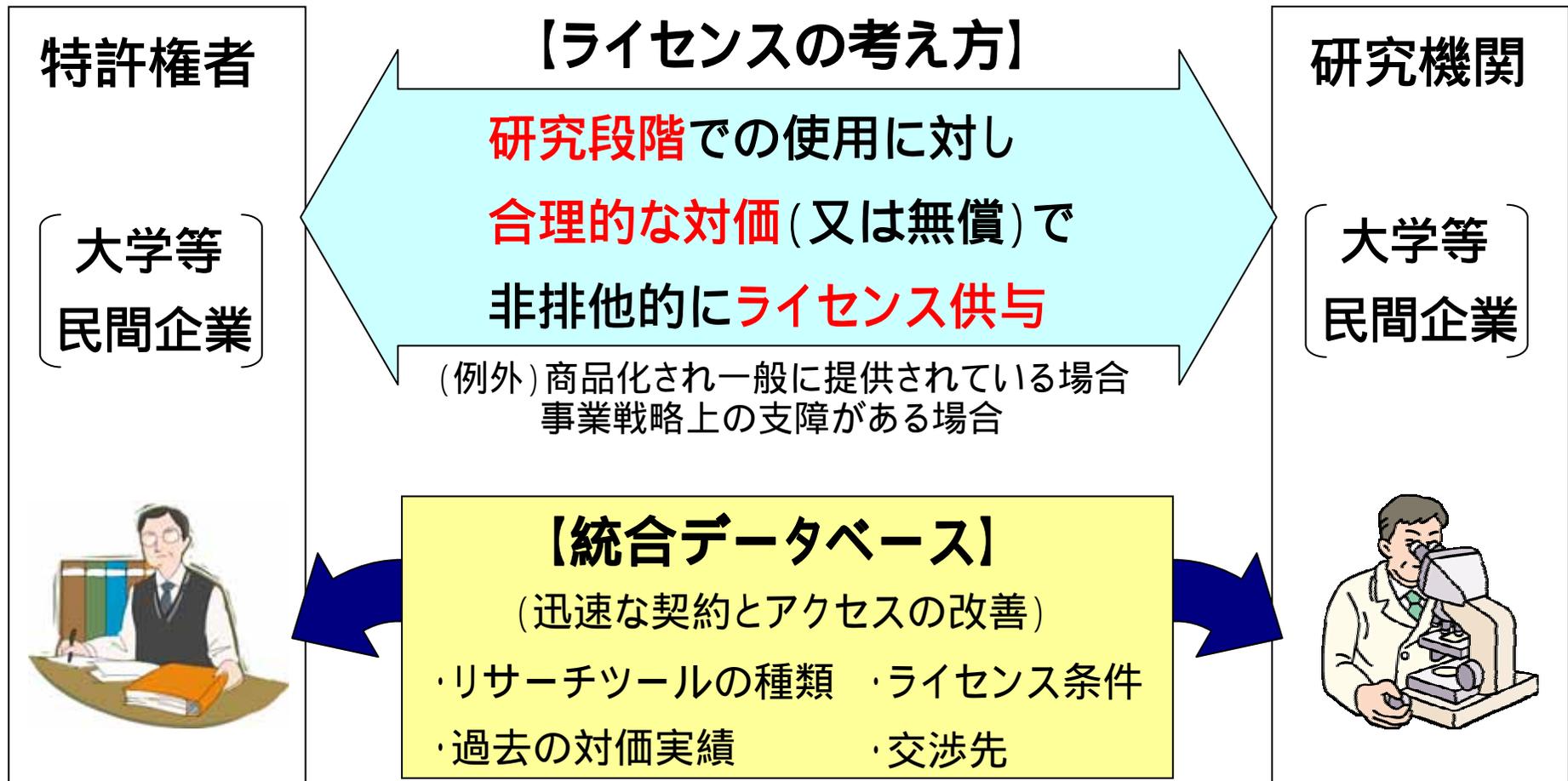
リサーチツール特許の紛争例



裁判所の判決: A大学の実験マウスは非侵害と判断

指針の概要

【目的】イノベーションに向けて研究開発を促進するため、
大学等や民間企業の**リサーチツール特許の使用を円滑化**



本指針の普及や実施の状況についてフォローアップを行う。